

## 線状降水帯が発生！あなたはいつ行動しますか

VOL.4【2023.8】

天気予報で「線状降水帯」という言葉をよく耳にするようになりましたが、この言葉が注目されたのは2014年8月の広島豪雨災害でした。以降、2017年の九州北部豪雨、2018年の西日本豪雨災害などで、さらに一般社会に広く浸透しました。

今年も、7月に九州・中国・四国・北陸・東北など各地で大雨による災害が相次ぎ、線状降水帯の発生情報は7月21日時点で6回にも及びました。今回は、POTEKA観測点のある福岡県の大雨に注目していきます。

7月10日未明から朝にかけて、福岡県、佐賀県、大分県に相次いで線状降水帯が発生し、福岡県と大分県には大雨特別警報が出されました(福岡県は6時45分、大分県は8時7分に発表)。

この日、福岡県久留米市では河川の氾濫や土砂災害が相次ぎ、大規模な住居や農業、商業被害が起きました。

久留米市POTEKAの7月9日 5時55分～7月10日の連続雨量は327.5mm(7月9日に66.5mm、7月10日に261.0mm)、久留米市POTEKAより東に約7.5kmの場所に設置されている、うきは市POTEKAでは7月10日の1時間雨量の最大値は6時45分に108.5mmを観測。日降水量は482.0mmに達しました。

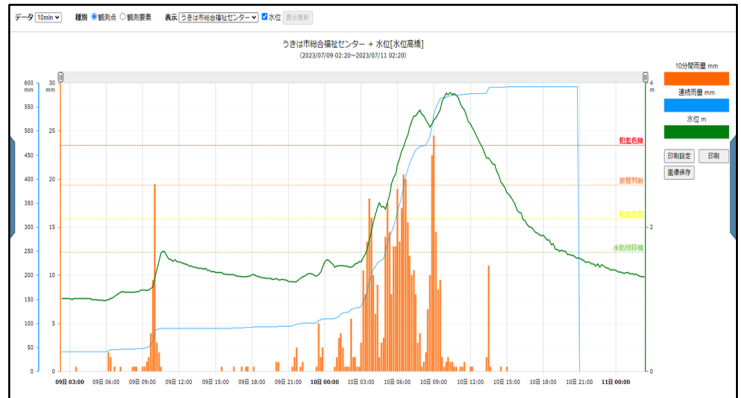
久留米のアメダスの7月の降水量(平年値)は376.3mmなので、1ヶ月の降水量並みかそれ以上の雨がわずか2日足らずで降ったことになります。

図1と図2は各POTEKA観測点と、近隣の河川水位のデータを重ね合わせたグラフです。

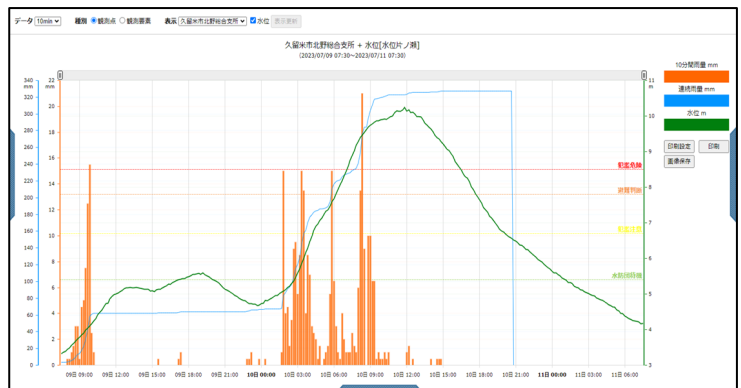
それぞれの河川では未明から朝の短時間に急激に水位が上昇しており、うきは市では6時30分から13時、久留米市では7時から16時30分頃までの間、氾濫危険水位が続いています。

また、避難判断水位から氾濫危険水位に達するまでの時間はどちらの市もわずか1時間程度でした。避難判断の基準に達したとしても、リアルタイムではその後どのくらいで河川が氾濫するかわかりません。土砂災害もいつ山や崖が崩れるかわからないのです。避難指示が出てから行動しても、すでに身動きが取れない状況に陥ることもあるかもしれません。

線状降水帯が発生し、近隣に河川氾濫や土砂災害の危険性が少しでもある場合には、万が一に備えて早期の避難判断、行動が必要ではないでしょうか。



【図1】うきは市POTEKAと水位高橋(河川情報の水位局)の10分値グラフ



【図2】久留米市POTEKAと水位片ノ瀬(河川情報の水位局)の10分値グラフ

7月の線状降水帯発生情報

(参考) <https://www.bousai-top.com/entry2.html>

- ・7/1 山口県
- ・7/2 鹿児島県奄美地方
- ・7/3 熊本県
- ・7/8 長島県
- ・7/10 福岡県・佐賀県・大分県
- ・7/12 石川県、富山県